

「エネルギープラザ2008 in 御前崎」を開催しました

平成二十年十一月五日（水）から十一月七日（金）の三日間、静岡県御前崎市において「エネルギープラザ2008 in 御前崎（主催：経済産業省資源エネルギー庁、御前崎市）」を開催しました。秋晴れの中、初日の開会式・基調講演等には全国の電源立地市町村の自治体職員を中心に約三百六十名の参加者が集い、はじめに主催者を代表して経済産業省資源エネルギー庁の西山英彦電力・ガス事業部長と石原茂雄御前崎市長が、次いで後援として石川嘉延静岡県知事、最後に実施主体として森詳介財団法人



御前崎市長 石原茂雄氏



経済産業省資源エネルギー庁 電力・ガス事業部長 西山英彦氏



財団法人電源地域振興センター 会長 森詳介氏



静岡県知事 石川嘉延氏

電源地域振興センター会長（電気事業連合会会長）の挨拶がありました。その後、東京大学大学院の大西隆教授が「人口減少時代における農工商連携による地域経済の活性化」と題して基調講演を行いました。大西教授は、日本の人口は二〇五〇年には大幅に減少し、日本の人口の長期トレンドでは今世紀末に四千六百万人まで落ち込むという予測があるとし、国内外の事例を紹介しながら、地域活性化の大きな課題は、超低出生率からの脱却、地域産業の活性化による格差是正、産業の裾野の充実等にあると述べました。特に基幹となる産業とそれを支える関連産業や生活産業を結びつけ地域の産業に厚みを持たせることが重要である



東京大学大学院教授 大西 隆氏

も連携しながら地域にお金が循環していく産業構造をつくらなければならぬと結びました。

二日目は、地域振興事業検討会として「交流事業開発検討会」「特産品開発事業検討会」「特産品販路開拓検討会」「広域観光事業検討会」「中心市街地活性化検討会」「産業支援制度活用検討会」の六検討会が開催されました。本年度の検討会のプログラムは、午前中に市内各所の事例現場を巡るフィールドワーク、午後はグループに分かれてのワークショップなどの座学で構成され、「養殖クエの販路開拓」や「荒廃農地を活用したサツマイモの商品開発」などの開催地御前崎市の取り組み事例を基に実践的な検討内容となりました。各

ことを指摘。そのために農工商連携はもちろんで、さらにサービス・観光産業と光産業と



右：検討会の様子
中央：フィールドワーク（マリノパーク御前崎）
左：施設見学会（浜岡原子力館）

■お問い合わせ先
（財）電源地域振興センター 普及啓発課
電話：03・5405・8128
e-mail: enepia@dengen.or.jp まで

「中小企業総合展2008 in Tokyo」で企業立地支援制度をPRしました

去る十一月二十六日（水）～二十八日（金）の三日間、独立行政法人中小企業基盤整備機構主催、経済産業省中小企業庁及び関東経済産業局共催のもと、東京ビッグサイトにて「中小企業総合展2008 in Tokyo」が開催されました。

中小企業総合展は、中小企業が自ら開発した優れた製品・技術、商品、サービス等を紹介し、市場創出・販路開拓事業提携等のビジネスマッチングの機会を創出することを目的に例年開催されています。

今年も中小企業や支援機関によるブース出展（約六百ブース）や、講演会、無料経営相談が行われた他、起業に関する専門家や現役の経営者によるパネルディスカッションなどが行われました。また、三日間の開催期間中には、三万四千七百四十四の方が来場されました。

当センターは支援機関としてブースを出展し、来場者や出展企業等に対して、電源地域の各種立地支援制度を紹介しました。また、各企業のブース

をまわり立地意識についての声を聞き、今後の電源地域への企業誘致活動に活用できる貴重なご意見を数多く得ることができました。



右：開会式の様子
左：出展ブース

企業立地支援などについてのお問い合わせ・ご相談はこちらまでご連絡下さい。

■お問い合わせ先
（財）電源地域振興センター 企業誘致課
電話：03・5405・8116
e-mail: yuuchi@dengen.or.jp まで

「でんきのふるさと青森じまん市 in ごはんミュージアム」を開催しました

東京電力株式会社からの委託を受け、十一月二十八日（金）、二十九日（土）の二日間、「でんきのふるさと青森じまん市 in ごはんミュージアム」を有楽町の東京国際フォーラム内にある「ごはんミュージアム」で開催しました。

青森県は、原子力発電所（東通村・大間町）、原子燃料サイクルの要となる再処理工場（六ヶ所村）、リサイクル燃料備蓄センター（むつ市）といった原子力関連施設をはじめ、風力発電（全国一、二位の設備容量）、水力発電、さらには核融合の研究関連施設の建設など、まさにエネルギーの先進県となっております。そのほとんどは下北半島に集中しています。

このような「エネルギー先進県」の現状をお知らせするほか、青森県の魅力的な観光などについての情報も発信しました。

具体的には、青森の9つのじまんと呼ぶ「観光」「物産」「味覚」「歴史」「伝統」「工芸」「音楽」「方言」「エネルギー」という9つのブースで、それぞれの誇れるアイテムや情報を紹介しました。また、ミスりんごによるりんごのふるまいや、

青森の食材を使った料理教室、津軽三味線の演奏会などを行い、約六千八百人の来場者の方々に楽しんで頂きました。



物産じまんコーナー



青森県の食材を使った料理教室

「原子力発電所見学会」を実施しました

経済産業省資源エネルギー庁の委託を受け、原子力発電の必要性や安全性、立地地域の実状等に対する認知向上や理解促進を図る「原子力発電所見学会」を全国で実施しました。

十一月、十二月には東北電力(株)女川原子力発電所、東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所及び福島第二原子力発電所、中部電力(株)浜岡原子力発電所、日本原子力発電(株)東海第二発電所の見学会を実施しました。



11月1日柏崎刈羽原子力発電所見学(BWR運転訓練センター)



11月1日福島第二原子力発電所見学(所内シミュレータ)



11月15日柏崎刈羽原子力発電所見学(サービスホール)



11月15日東海第二発電所見学(意見交換会風景)

それぞれ電力消費地である仙台市、東京都、さいたま市、横浜市、名古屋市などから教職員や自治体職員など計二百五十四人に参加いただきました。

当日は現地向かうバスの中で、「世界のエネルギー情勢」や「原子力の必要性」などについて、専門家が講義を行い、まず参加者に基礎知識を習得していただきました。

発電所では、構内をバスで一巡、PR館及び訓練設備等を見学した後、発電所の職員や地元自治体職員との意見交換会を実施しました。参加者からは、「現場の人の話をじかに聞けてよかった」、「エネルギーや環境等の授業に今後生かしていきたい」といった声が聞かれました。



11月29日浜岡原子力発電所見学(原子力館内見学)



12月6日浜岡原子力発電所見学(研修センター内見学)

お問い合わせ先
 (財)電源地域振興センター 普及啓発課
 電話：03-5405-8128
 e-mail: fukyudengen.or.jp #1

【Vol.13 読者の声から】

●まちづくりは人づくりからと言われるように、そこに生活がなければ成り立たないと思います。ひとりひとりが誇りを持つのは大切ですね。
 (島根県 女性)

●住民一人ひとりが地域に誇りを持ち、ふるさとを再発見していきたい。勇気をもりました。
 (新潟県 男性)

●グルメ列車とは面白い企画で、四季ごとに料理が違って、楽しみにしている人たちも多いと思います。
 (青森県 男性)

●いつもいつも皆さんのパワーを感じます。私も、自分も元気で他の方にもパワーをわけてあげることができるとなりたいです。
 (宮崎県 女性)

●特集で取り上げた新潟県柏崎市。震度6強の大地震にも負けずに行った七街道事業の製作には頭が下がります。また、長野県飯山市のあるがままの自然を活用した事業を読み、自

分のまわりも見直してみたいと感じました。
 (福島県 男性)

●七街道の記事や寒天料理列車に興味を持ちました。旅行が好きで、ウォーキングコースなどを探しています。街道の詳細が紹介してあるといいですね。またやはり旅にはおいしいお食事は不可欠ですね。寒天料理列車にもぜひ乗りたいです。
 (島根県 男性)

●観光関係の資産・資源は多くあるが、発展性がないのが難しいところ。何か新しい観光ネタと融合している事例等を知りたいと思います。やはり他県がいろいろな取り組みで頑張っているのはとても参考になります。
 (京都府 男性)

●たまごかけごはんシンポジウムの発想に感動した。
 (徳島県 男性)

●長野県飯山市の記事を読み、旅行業法改正に伴い、新たな旅行形態に取り組む様子が参考になった。
 (熊本県 男性)

今号で紹介した電源市町村の発電所データ

◆特集(表紙) 宮城県丸森町
 表紙裏の目次欄を参照

◆ふるさと応援団 沖縄県恩納村
 金武火力発電所隣接
 出力:44万kW
 事業者名:沖縄電力株式会社

◆いきいき電源地域 山形県鶴岡市
 八久和発電所(水力)所在
 出力:6.03万kW
 事業者名:東北電力株式会社

◆いきいき電源地域 山口県上関町
 上関原子力発電所(着工準備中)所在
 出力:274.6万kW
 事業者名:中国電力株式会社

◆電気のふるさと産品自慢 福井県美浜町
 美浜発電所(原子力)所在
 出力:166.6万kW
 事業者名:関西電力株式会社

【読者プレゼント】

今号の特集「Pick Up」にご登場いただきました宮城県丸森町のご厚意により、「丸森町特産品セット」を五名様にプレゼントいたします。

とじ込みのアンケートハガキに本誌へのご意見、ご感想などをご記入の上、平成二十一年一月二十日(消印有効)までにお送りください。なお、当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。

【セット内容】

- 「二十年丸森産こしひかり(三倉)」丸森はお米が美味しいことも知られていません。他に負けない自信作をお試し下さい。
- 「う米米(まいまい) 麺(三食入り)」丸森産米を主原料としたお米麺。小麦麺より低カロリーでヘルシーです。

○「和風布スリッパ」

高齢者生産活動センターで作られた「わら細工芸品」です。予約しないと手に入らないほどの人気商品です。

【丸森町特産品セットに関するお問い合わせ先】

丸森町産業観光課
 0224-72-3026

